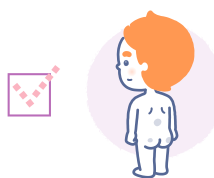


ムコ多糖症が疑われる症状

以下のいくつかの症状が重なった場合には、ムコ多糖症の可能性あります。

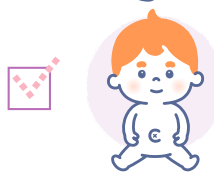
生後1～6カ月くらいで明らかになる症状



広範囲の
もうこはんがある



中耳炎をくり返す



脱腸（そけいヘルニア）や
でべそ（さいヘルニア）が
ある



頭が大きい



まゆげが太く濃い
（ゲジゲジしている）



指がゴツゴツしている

1歳以降で明らかになる症状



お腹のふくらみがある



発達の遅れがある



大きないびきをか



関節のこうしゅくがある
（指先がまっすぐに伸びない、
バンザイができない等）

監修：国立成育医療研究センター臨床検査部 統括部長/
ライソゾーム病センター長 奥山 虎之 先生

患者さんによって、
症状の重症度や症状の現れ方はさまざまです。

ムコ多糖症は放っておくと症状が進行することから、早期に診断し、治療を開始することが大切です。
より詳細なムコ多糖症に関する情報をご希望の場合は、下記のリモート情報提供サービスに
ご連絡（お電話またはe-mail）頂くか、QRコードを読み取り、ムコ多糖症ナビをご参照ください。



サノフィではリモートでの
情報提供も行っております。

・専門の担当者が対応 ・診療の合間に利用可能
・どこでも利用可能

TEL: 0120-176-033

E-mail: remote-mr@sanofi.com



ムコ多糖症ナビ

ムコ多糖症に関する
最新資料、最新トピックスを
掲載しています。

サノフィ株式会社